

## 動画でみる 変形性関節症患者の臨床動作分析

加藤 浩<sup>\*1</sup>  
Hiroshi KATO, SBJPT, PhD

奥村 晃司<sup>\*2</sup>  
Koji OKUMURA, RPT

今田 健<sup>\*3</sup>  
Ken IMADA, RPT, MS

大平 高正<sup>\*4</sup>  
Takamasa OHIRA, RPT

木藤 伸宏<sup>\*5</sup>  
Nobuhiro KITO, RPT, MS

1. 変形性股関節症患者の臨床動作分析のポイントについて解説した。
2. 変形性股関節症患者でよくみられる跛行の種類について解説した。
3. ビデオ映像による臨床動作分析を行うポイントとして、①基準線を設定すること、②骨指標（ランドマーク）を明瞭化させるために背景色とのコントラストを強くすること、などの工夫について解説した。
4. 観察のポイントとして、①健常ペースとの比較、②健側・患側間での左右比較、③局所的視点に加え、全身的視点を加味した観察の重要性について解説した。
5. トレンデレンブルク跛行、デュシェンヌ跛行を例に、それぞれ動画を提示しながら分析を進め、跛行陽性と臨床的判断を下すための思考過程について解説した。

### はじめに

われわれセラピストが臨床で動作分析を行う目的は、障害原因の究明とその障害の程度を客観的に定量化することにより、科学的思考に基づいた質の高い治療戦略を展開することにある。実際に臨床動作分析の「診る目」が優れたセラピストは、臨床的観察能力が高く、個々の患者の障害に応じた治療戦略（質の高い治療戦略）を構築できる。では、どのようにすれば臨床動作分析の目を鍛えることができるのだろうか。そのためには、解剖学、生理学、運動学といった学問の知識をベー

スに、日々の臨床において患者の動作を常に注意深く観察し、自分なりの臨床的思考を磨くこと（さまざまな予測や推論を繰り返し行うこと）である。そして、必ず、そこで得られた結果を臨床の実践場面で検証することである。すなわち臨床動作分析とは、患者の持つ日常生活動作障害の改善に向けた実践的・積極的行為でなければならない。この臨床的思考と実践的行為の経験をいかに増やすかが、臨床動作分析の能力を磨く鍵となる。本稿では、筆者らの臨床経験に基づく思考過程を通して、変形性股関節症（以下、変股症）患者の歩行時の動作分析のポイントについて述べる。

### 変形性股関節症患者の歩行動作の特徴

変股症とは、関節軟骨の退行変性や摩耗により関節の破壊や変形を来す、慢性疼痛を主症状とした進行性の変性疾患である。そして、病期の進展に伴いさまざまな跛行を示すようになり、おおよ

\*1 吉備国際大学保健科学部理学療法学科  
(〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町 8)

\*2 川島整形外科病院リハビリテーション科

\*3 錦海リハビリテーション病院

\*4 吉備国際大学大学院保健科学研究科

\*5 広島国際大学保健医療学部理学療法学科